

# 房日新聞

THE BONICHI SHIMBUN

8月10日 金曜日

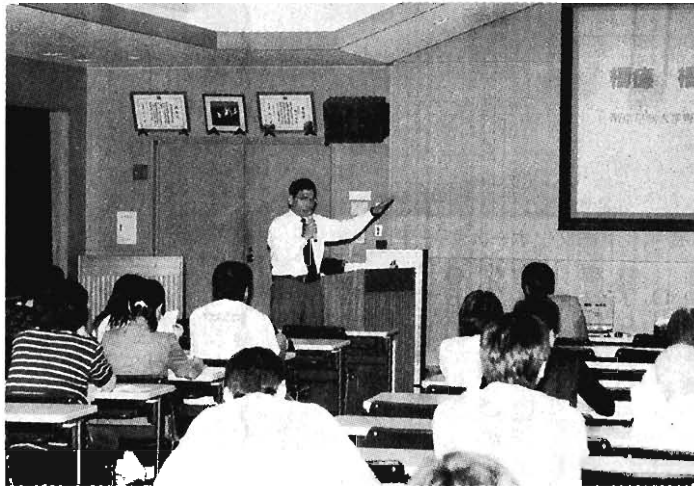
平成19年(2007年) 旧暦6月28日(先負)

日刊 第16429号 (昭和27年3月27日 第3種郵便物認可)【月曜休刊】

天気	南西の風 晴れ のち南の風 曇り 昼過ぎから時々曇り
潮位	満潮 00時45分/16時35分 中潮 干潮 08時45分/21時19分 (布良)

## 50人が「床ずれ」知る

### 鴨川NPOが専門家招き講演会



床ずれについて語る長尾氏＝鴨川市ふれあいセンターで

おいて、医師や薬剤師、介護者など、さまざまな視点から予防や治療、薬品、機器などの研究開発に取り組み、治療法の確立につなげようと今年2月、13人の会員で発足した。

初の対外的活動となった講演会は、患者を抱える家族の介護力アップと、医療機関や行政などへの啓蒙活動として、安房医師会、県薬剤師会館山、鴨川西支部などが後援、新田セラチンと三宝製薬、クリニコの3企業の協賛で開かれた。

講演会では、まず、久保理事長が会発足の趣旨や経緯などを交えながら「総合的、本質的な内容の講演が、みなさんの新しい知識を得る機会になれば」とあいさつ。早速、理学療法士で帝京平成大学専門学校理学療法学科長の長尾邦彦氏による講演に移った。

長尾氏は、「床ずれを作らないために、自分自身でも知らない体の動きを知ろう」と題し、床ずれと切り傷の違いや発症のメカニズム、理学療法士の立場から、床ずれ発症要因のひとつ、寝たきりを防止するリハビリ、介護法のポイントなどを具体的に説明した。

寝たきりから発生する床ずれは、急速に進む高齢化社会により、今後さらに患者の増加が予想される。大きな問題だけに、参加者は、熱心にメモをとり傾聴していた。

NPO法人床ずれ研究会(久保忠一理事長)は、一般市民や医療・介護事業関係者を対象にした床ずれ予防の講演会を、鴨川市ふれあいセンターで開いた。高齢者医療の質向上に

取り組み理学療法士の講演を約50人が聴講。発症のメカニズムや具体的な介護法などについて理解を深めた。

同研究会は、専門機関が少ない床ずれ研究の分野に